



SGN News



第45号 2025年3月
滋賀グリーン活動ネットワーク
ニュース

～滋賀から「グリーン経済」をつくる～

連携推進事業 グリーン経済フォーラム2024

CO₂ネットゼロ×事業経営 中小企業のグリーン経営で日本を救え!

～できない理由より、できる方法を探そう～

【会場(コラボしが21 3階 大会議室)と オンライン(ZOOM使用)の併催】開催報告

◆開催日:2024年11月5日(火)

◆参加者:約65名

プログラム

- 開会挨拶 秋山 道雄 (SGN会長)
- 基調講演 『「断熱」が日本の中小企業を救う!?』
高橋 真樹氏 (ノンフィクションライター/放送大学非常勤講師/朝日新聞デジタルコメンテーター)
- 事例紹介1 「気候変動がもたらす影響をどう見るのか ～中小企業が取るべき気候変動対策～」
宇佐見 剛氏 (株式会社滋賀銀行 総合企画部 サステナブル戦略室 サステナブル推進グループ長)
- 事例紹介2 「4代目大工が挑む、ぶっ飛び『グリーン戦略』～実例から～」
北村 卓造氏 (匠堂合同会社 代表社員)
- 事例紹介3 「生産性向上×コスト削減～実現するための5つのキーワード」
中野 修一氏 (新旭電子工業株式会社 相談役(兼務) 生産技術部 部長/SDGs・DX推進室 室長)
- 質疑応答・ディスカッション「中小企業が今やるべき事とは」
コーディネーター:高橋 卓也氏 (滋賀県立大学 環境科学部 教授/SGN副会長)
- 滋賀県の取り組み紹介 小嶋 翔真氏 (滋賀県総合企画部 CO₂ネットゼロ推進課 主事)



高橋 真樹氏 宇佐見 剛氏 北村 卓造氏



中野 修一氏 高橋 卓也氏 小嶋 翔真氏

地球温暖化の進行は自然環境のみならず経営環境にも大きく影響を及ぼし、2035年には衰退していく企業、発展する企業に大きく分かれていくと言われてます。

今、日本の企業の9割以上を占める中小企業がグリーン経営に舵を切り、CO₂ネットゼロを目指せば、それは地球温暖化を食い止める大きな原動力となると同時に、持続可能な事業としての大きなビジネスチャンスにもなり得ます。大規模な技術革新を展開する大企業と並行して、中小企業が出来る事は何か、やるべき事は何か…『「断熱」が日本を救う 健康、経済、省エネの切り札』の著者である高橋真樹氏の基調講演を話題提供として、中小事業者のグリーン経営を支援する取組や、実際にビジネスチャンスに繋がった事業者の実例をお聞きすることで、2035年に向けて、中小企業が持つ〈経営資源(強み)〉を最大限に活かしながら、今出来ること、やるべきことを考える機会として本フォーラムを開催しました。

基調講演『「断熱」が日本の中小企業を救う!?』高橋 真樹氏 (日本で唯一の「断熱ジャーナリスト」)

日本が「ガマンの省エネの国」であるのに対し、欧米では「ガマンは省エネではない、暑さ・寒さは人権問題」と考えられています。現状、日本は既存住宅の9割がほぼ無断熱であり、住宅の断熱性能を示すUA値(外皮平均熱貫流率)では日本政府が定めた最高等級の住宅(断熱等級4/22年まで)であっても他国の義務化レベルにも及ばない状況とのことです。[交通事故で亡くなる人数<ヒートショックにより浴槽内で溺死された人数]、の事実からも、断熱性の低い家は健康被害にも繋がっており、「暑い・寒い・不健康&エネルギー浪費&お金がなくなる」を国中でやっているのが日本であり、これは大変もったいない。「断熱」したら社会が変わる!と強く訴えられました。まずやるべきは窓断熱からで、コストはかかるように思われるけれど、断熱は必ず儲かると言える「未来への投資」であり、優秀な投資先と考えても良いとのことでした。

エネルギーの循環は資金の循環につながり、再エネ・省エネであれば地域の事業者が手掛けることが出来ることから、地域を豊かにする鍵はエネルギーであるともいえ、その中心を担えるのは中小企業です。断熱で消費電力を減らすことを同時進行で行えば、脱炭素・再エネ100%も可能です。

中小企業が出来ることとして、①エネルギーは作るより減らす ②ガマンは省エネとは呼ばない等「常識」「当たり前」を変える、まずは個人レベルの意識を変える ③店舗、オフィス、工場のZEB化推進 ④地域金融機関は断熱の支援を! ⑤断熱を重視するエネルギー政策の提言を自治体へ働きかける等、具体的なご提案もいただきました。

INDEX



●グリーン経済フォーラム2024	1	●SGN会員でつなぐリレートーク	
●新役員紹介	2	●グリーン近江農業協同組合	6
●ピックアップ! 中小企業者サステナビリティ 自主調査推進プロジェクト(2022~24年度)	3	●今さら聞けない用語集	6
●新規会員からひとこと	3	●潮流『国内ファッションリユース市場規模は前年比113.9%』 『「食品ロス」削減へ食残持ち帰り促進ガイドライン公表』 『次世代太陽電池~ペロブスカイトって何?』	7
●活動レポート1	4	●SGN入会特典	7
●活動レポート2	5	●会員発工コ商品情報	8

事例紹介1「気候変動がもたらす影響をどう見るのか

～中小企業が取るべき気候変動対策～ 宇佐見 剛氏

地域金融機関は気候変動対策を進める役割の一端を担っていると考える中で、気候変動対策の重要性の一つの捉え方を金融機関として伝えられました。脱炭素への具体的な取組みは、持続的にやる取組みとイベント的にやる取組みに分かれ、持続的に行う日々の活動、業務効率化など短期間で効果が見えない取組みは、早くからやり始めておくことが重要で、まずは「測る」ことで、どこに原因があるのか突き止めて取り組むのが持続するためのコツとのことです。滋賀銀行では、知る・測る（計測ツールあり）・目標を立てる・実践する等の伴走支援を行っているのでご活用いただきたいと結ばれました。

事例紹介2「4代目大工が挑む、ぶっ飛び『グリーン戦略』～実例から～」 北村 卓造氏

温度差のない快適な家、家計への負担が軽い家にするには断熱性能の向上が必要という結論に至り、住宅取得が負担にならない家づくりをめざし、断熱性能の良い家を長い目で見て安かったと思う家を販売するという想いを形にされたのが、ゼロエネルギー住宅+蓄電池+特許工法=最良の家、すなわち「未来に笑える家」「ZEH未来笑い家」であり、平成28年度滋賀県低炭素社会づくり賞を受賞されました。ZEH+蓄電池を標準化することで電気を買わない家の提案を行い、また、断熱等性能等級にこだわることなく、断熱性能と建築コストの最もよいバランスを模索し、その最適値であったUa値0.32を目指して家づくりを行っておられます。38歳の時に決意された「ゼロエネルギー住宅しか建てない!」という北村氏の強い思いがイノベーションを起こした実例を示していただけました。

事例紹介3「生産性向上×コスト削減～実現するための5つのキーワード」 中野 修一氏

2018年に経済産業省より「地域未来牽引企業」（全国1543社）に選ばれた新旭電子工業の事業経営について、SDGsの目標やCO₂排出削減・脱炭素に向けたアイデア満載の数々の取組をご紹介します。5つのキーワードとは①資源3R活動 ②職場環境の改善 ③CO₂の削減 ④社員教育 ⑤お客様との協業 ですが、これらの複合的な取組で、人は半分で生産性が2倍になるという実績を上げられ、令和4年度には「しがCO₂ネットゼロみらい賞」、他にも電子カルテを導入や、梱包、運送面での徹底的改善を図られ、2021年度にはパナソニック(株)全社でのECO/VC活動最終審査会にて「銅賞」も受賞されました。企業にとってヒントになる活動が満載なお話でした。

講演後のパネルディスカッションでは、滋賀県立大学 環境科学部 教授でSGN副会長である高橋 卓也 氏のコーディネートで議論が進みました。「和風の間だけ住宅をゼロエネルギー住宅にするにはどれくらいの費用がかかるのか。」「マンション住まいの自分でできる断熱対策の良いアイデアはないか。」「数々のアイデアはどこから生まれたのか。」「金融機関からの資金援助があればもっと断熱が進むのではないか。」等、会場及びオンライン双方の参加者から多くの質問やご意見が出ていました。



滋賀県の取り組み紹介 小嶋 翔真氏

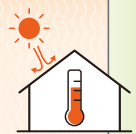
最後に滋賀県CO₂ネットゼロ推進課から、CO₂ネットゼロへのステップ（1.知る、2.測る、3.減らす）に応じた滋賀県の「企業向け支援制度」について、令和6年度版「CO₂ネットゼロ推進ガイドブック」に基づき説明されました。

●断熱等級（1～7まで）

4：2025年以降の最低基準、5：2030年以降の最低基準（22年4月新設）、6,7：22年10月新設
日本を1～8の地域に区分し、それぞれに満たすべきUA値（外皮平均熱貫流率室内）とηAC（イータエーシー）値の基準値が定められている

●UA値：室外間の熱の通りやすさを示す値、値が小さいほど熱が逃げにくく、省エネルギー性能が高いことを示す

●ηAC値：冷房期にどれくらい太陽の日射熱が住宅内に入るかを示す値、値が小さいほど住宅内に入る日射による熱量が少なく、冷房効果が高くなる



一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク 新役員紹介

11月26日に開催した
第15回臨時会員総会にて
ご就任いただきました。



株式会社滋賀銀行

総合企画部 サステナブル戦略室 室長 **山本 卓也**

パーパス（存在意義）を「『三方よし』で地域を幸せにする」としている滋賀銀行グループでは、昨年4月にスタートした第8次中期経営計画を通じた「地域を幸せにする好循環」の創出を目指しています。「滋賀から『グリーン経済』をつくる」を掲げる滋賀グリーン活動ネットワークの活動と足並みを揃え、持続可能な地域経済をデザインできるよう取り組んでまいります。



中小企業者サステナビリティ 自主調査推進プロジェクト (2022~24年度)

◆ 中小企業者サステナビリティ自主調査推進プロジェクトとは 実践促進

持続可能な社会づくりやSDGsの取り組みに資することを目的とし、大企業を対象として5年にわたり消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク（事務局：環境市民）で実施してきた、市民目線でのCSR・サステナビリティ調査「企業のエシカル通信簿」を活用しながらも、中小企業者が自身の会社を自己チェックするという「持続可能な経営のためのセルフチェック（中小企業者サステナビリティ自主調査票）」として実施する仕組みを構築するもので、認定NPO法人環境市民が、独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて実施しているプロジェクトです。

地域の持続可能性を高めていくために重要な存在である中小企業者のCSR活動が向上し、地域の状況に応じた中小企業者のサステナビリティの取り組みを高めていくことを目的として約430の会員を抱える滋賀グリーン活動ネットワークもこのプロジェクトに関わっています。

2022年度	第1回検討会議	2022年 7月11日(月)	オンライン
	第2回検討会議	2022年 9月 7日(水)	オンライン
	第3回検討会議	2023年 3月24日(金)	オンライン
	・調査票の項目や用語解説についての検討 ・対象や運用についての議論 ・研修会についての検討(事前・事後)		



セミナーの様子



調査票表紙

2023年度	検討会議	第1回	2023年 6月21日(水)	オンライン		
		第2回	2023年10月19日(木)	オンライン		
		第3回	2024年 2月27日(火)	京都経済センター		
	研修会等	説明会&事前研修会	2023年 7月11日(火)	コラボしが21 中会議室1		参加者:13名
		事後研修セミナー&事業者交流	2023年 9月 6日(水)	オンライン		参加者:19名
	セルフチェック報告交流会	2024年 2月27日(火)	京都経済センター 4階/オンライン併催			
2024年度	検討会議	第1回	2024年 7月10日(水)	オンライン		
		第2回	2024年11月20日(水)	オンライン		
		第3回	2025年 3月 6日(木)	オンライン		
	研修会等	地域と自社の持続可能性を考える研修会	2024年12月24日(火)	フェリエ南草津5階 小会議室/オンライン併催		参加者:24名

セルフチェックの項目

1. サステナビリティ体制 / 2. 消費者の保護・支援 / 3. 人権・労働 / 4. 社会・社会貢献 /
 5. 平和・非暴力 / 6. アニマルウェルフェア /
 7. 環境 A) 環境ガバナンス B) 気候変動 C) ごみ削減 D) 生物多様性 E) 化学物質 F) 水

調査票は数が多いため、時間がかかりそう、と一見取っつきにくいかもしれませんが、全て出来ないといけない、というものではなく、また、チェックができないことを卑下する必要もなく、持続可能な経営のために、今自社（自団体）はどうなのか？今後どうしていくべきかを知るため、「見える化」するための一歩としてぜひご活用ください。用語解説付きですのでこの1冊があればとても役立ちます。セルフチェックの内容は公開することはありませんので、気軽に、そして「自社の“強味”を見つけるぞ!」くらいの気持ちでぜひチャレンジしてください。

ご興味のある方は、SGN事務局までご連絡ください。

新規会員からひとこと

2024年8月1日から2025年1月31日までの入会者（団体名の50音順）

現会員数：432 団体
 [企業356、団体22、行政54]
 (2025年3月1日現在)



株式会社コスト

代表取締役 中嶋 一浩 氏

弊社は設立21年を迎えた建築設計・コンサルタント会社です。木造CLT工法を採用した福祉施設の普及を通じて持続可能な施設づくりを推進しております。また、国産材・びわこ材を活用した空間づくりや家具づくりもご提案しております。



有限会社マリナアールヴィ

代表取締役 寺島 靖雄 氏

湖岸道路沿いでキャンピングカー中心に活動。アウトドアのカプセルホテル「エアロックキャンピング」を立ち上げました。毎年6月に「BIWAKOアウトドアフェスタ」を開催。



活動レポート

研究会活動報告 連携推進

◆エコ交通研究会

- ・第5回公開セミナー
「交通危機と人手不足の時代を三方よしの交通で乗り切ろう
持続可能な社会への事業者・行政・市民の挑戦」
2024年7月23日(火)

●参加者:33名 ●会場:キラリエ草津 502会議室

交通エコロジー・モビリティ財団 岡本英晃氏がオンラインにて基調講演いただいた後、株式会社日立建機 ティエラ 牛谷 健司氏、NPO法人自転車活用推進研究会 松浦 是氏、おおつ交通まちづくり推進会 畑中 則宏氏、滋賀県土木交通部 県東部地域公共交通支援室 森原 広将氏に活動報告いただき、輪の国びわ湖推進協議会 佐々木 和之氏のコーディネートにて「令和の社会課題にエコ交通で挑む」と題してディスカッションを行いました。EST (Environmentally Sustainable Transport/ 環境的に持続的な交通) をどう達成していくのか、エコ交通と健康や医療費との関係、地域のバスや鉄道の現状報告等、多岐に渡りました。また交通事業者と利用者のコミュニケーションについても議論が交わされました。

- ・毎月配信されるSGNメルマガに研究会メンバーが交代でコラム
「エコ通勤・エコトリップのススメ」を掲載し、エコ交通研究会の情報を発信



エコ交通研究会
ホームページ

第5回セミナー(7/23)

◆ゼロエミッション研究会

- ・「目からウロコのオフィスづくりでオフィスの困りごとを解決!」 2024年9月18日(水)

●参加者:13名 ●会場:コクヨ梅田ライブオフィス ●協力:コクヨマーケティング株式会社

半数以上の事業者は書類山積み問題を抱えているそうです。山積みされ整理整頓されていないオフィスでは書類検索に係る時間も無駄だらけ、とのことで「タイムセービング」「スペースセービング」をキーワードに、今すぐ始められる働き方改革を教わりました。どのように整理・分類するかがカギです。座学の後にはワークショップを行い、その片鱗を理解することができました。その後はコクヨ梅田ライブオフィスを見学し、ゼロエミッションにつながる取り組みについても教えていただきました。参加者の皆さまは少しでも自らのオフィスに取り入れていきたいと熱心に質問されていました。



オフィスの困りごと解決セミナー(9/18)

◆生物多様性と環境・CSR研究会

- ・野外セミナー「寿長生の郷に学ぶ、自然共生で描く事業経営」 2024年10月8日(火)

●参加者:24名 ●会場:叶 匠壽庵 寿長生の郷

「農工ひとつの菓子づくり」を掲げる叶 匠壽庵の本社拠点としての寿長生の郷は、2019年滋賀県より「しが生物多様性取組認証」の2つ星、2020年には3つ星の認定を受け、2023年10月には自然共生サイトに認定されました。

今にも雨が降りそうな天気の中、企業・団体・大学の先生・学生等、集まった多様な参加者が、まずは池田氏から来年40周年を迎える叶 匠壽庵の歩みと取り組みについて説明を受けた後、樹木医の資格を持っておられる丹澤氏より、歴史的なお話や現場でのご苦労や喜び、具体的な動植物の名前も教えていただきながら、レッドデータブック掲載の植物も25種程自生している敷地内を全員で巡りました。

その後、敷地内の茶室にてお茶席体験後、意見交換会を行いました。自然共生サイト認定までのご苦労、認定後の変化等についても話いただきました。



野外セミナー 敷地内散策(10/8)



野外セミナー 意見交換(10/8)



活動レポート 2

「会員講師派遣事業」 2024年度 暮らし方普及

2024年度は以下の方々へ2大学へご出講いただきました。

- ・滋賀県立大学「環境経営学」（高橋卓也教授・SGN副会長）
講師の話の後、学生に対して「お題」が出され、グループ討論の後発表。その発表内容に対してゲスト講師から講評をいただきます。学生は苦戦しながらもお題に挑んでいました。
ダイキン工業株式会社 滋賀製作所 前田 安彦氏・岡田 大樹氏・川村 佳奈氏
株式会社昭建 高田 清義氏
WEF 技術開発株式会社 本江 宗明氏
- ・京都産業大学「ソーシャル・ガバナンス論」（宮永健太郎教授・SGN運営委員）
パンデミックになり動画配信となっておりますが、今年度は講師からの要望もあり、対面授業となりました。
油藤商事株式会社 青山 裕史氏



県大講師派遣の様子(11/20)



京産大講師派遣の様子(12/13)

全て出講日程順に掲載
講師をお務めいただいた皆様、
ご協力ありがとうございました。

「自治体部会連携 買うならエコリレー」 2024年6月～2025年3月 暮らし方普及

県内自治体連携で「パネル展示（庁舎等での展示）」と「ブース展示（イベントにて展示）」にてグリーン購入を普及啓発する「びわ湖一周『買うならエコ!』リレー」。この活動は2009年度から始まり、16年目となりました。6月下旬からスタートし3月でゴール予定です。

- [2024年度 ①グリーン購入ってな～んだ? ②グリーン購入+エシカルをはじめよう 掲示パネル] ③めざせ!サーキュラーエコノミー ④つくる責任・つかう責任 ⑤プラスチックごみを考えよう ⑥食品ロス削減 ⑦啓発リレーパネル



自治体買うならエコリレー
(愛荘町)

「自治体のグリーン購入担当者連絡会議」 2024年7月4日(木) 実践促進

環境省 大臣官房 環境経済課 課長補佐 鎮西 武氏に①グリーン購入法の概要 ②令和5年度の主な見直し ③グリーン購入の更なる発展についてご講義いただきました。後半の連絡会議では、まず「自治体グリーン購入啓発リレー」について意見交換をした後、「地域協働で進める『買い物でプラごみ減らし』の提案」と題して、NPO法人環境市民の堀 孝弘氏に講演いただきました。フランスでは循環経済法により2022年1月から小売りで野菜果物のプラ包装を禁止しています。法律施行前、推計37%の野菜果物が包装されていて、施行により年10億個以上のプラ包装が削減できるとのことです。日本はどうかかと思ひ、まずは京都で、その後全国にて行った調査結果についてお話いただきました。講演後は行政として取り組むことを検討していきたい、との意見が相次ぎました。(参加者：24名)



自治体連絡会議の様子

GPプラン滋賀(2024年度実績) 県受託事業 実践促進

滋賀県のグリーン入札制度で優先的取扱いの対象事業者となる「グリーン購入実践プラン滋賀登録制度（略称：GPプラン滋賀）」。

動画配信の基礎研修会はいつでもご受講いただくことができ、グリーン購入の学び直しや新入社員研修にも役立ちます。
実践講座は前期3回、後期3回、基本的には会場受講（前後期1回ずつオンライン併催）となりました。CO₂ネットゼロ・生物多様性・廃棄物・MLGs・環境問題の世代論、滋賀県ナイスハート物品購入制度に関連して福祉もテーマに入るなど多岐に渡りました。多数の会員の方に講師もお務めいただき、本当にありがとうございました。2025年度も多彩な講師陣を予定しておりますのでご期待ください。



GPP前期の様子

●2024年度講師をお務めいただいたSGN会員の皆さま

- 前期1 滋賀県 琵琶湖環境部 自然環境保全課 生物多様性戦略推進室 主査 川口 健一氏
生活協同組合コープしが 事業支援部 環境政策推進チームリーダー 濱 均氏
生活協同組合コープしが 組織広報部 統括マネージャー補佐 香村 朋周氏
前期2 株式会社ずっ平 取締役/アベイク合同会社 代表 河瀬 有子氏
前期3 株式会社木下カンセー 執行役員営業本部長 阿江 暁氏
株式会社ミタカグループホールディングス 代表取締役 三峰 教代氏
後期2 滋賀県立大学 環境科学部 教授 高橋 卓也氏 (SGN副会長)
後期3 滋賀県 総合企画部 CO₂ネットゼロ推進課 参事 平田 雅史氏

Relay
Talk

SGN会員でつなぐ

リレートーク>>>

セトレマリーナびわ湖からのご紹介

グリーン近江農業協同組合
管理部 総務課

課長 福田 真由美さん



グリーン近江農業協同組合は地域に根差した協同組合として、組合員はもとより、地域住民や消費者に安心安全な農畜産物をお届けするため、日々の事業活動・運動を行っております。2024年10月誕生30周年を迎え、より一層地域の協同組合としての役割を果たしてまいり所存です。奇しくも2025年は国連が定める2回目の「国際協同組合年」です。この国連の定める国際年は、1年を通じて1つの特定テーマを設定し、国際社会の関心を喚起、取り組みを促すため制定されています。私共協同組合が国際的に評価されたというのは大変喜ばしいことですが、同時に大きなプレッシャーも感じております。私共は今まで以上に社会の中で果たす役割を理解し、またSDGs(持続可能な開発目標) 達成に向けた更なるブラッシュアップが必要であると再認識しています。

一昨年前、様々な社会情勢の変化の中で、ある一つの支店を閉鎖することとなりました。地域の協同組合として支店閉鎖を行うことについては賛否両論あると思いますが、ここではその話は置いておきます。山間地でJAの支店が閉鎖される。これはより一層の地域の衰退につながるのではないかと、このまま閉鎖してしまうのではなく、地域住民のよりどころとして何かできないだろうか、そう考えた地域住民が、国の事業である「農村型地域運営組織(農村RMO)」を活用し、現在地域を盛り上げるために活動展開してくれています。

昨年末にはJAと共同で地元農作物を使用した焼酎を販売、また今年は稲作オーナー制度を開始、今後はJAがキッチンを改装し、RMOがお弁当を制作販売や憩いスペースの充実を検討してくれています。地域住民とJA、そして行政が一体となって地域の食と農を支える、まさに協同組合の原点の活動だと感じています。そして全国には同じようにJAの空き店舗を活用した地域住民による協同組織がたくさんあり、現在、JA愛知東、JAひだの地域住民の方々と「協同の縁(えにし)」としてお互い切磋琢磨して協同の取り組みを広げています。



清掃活動の様子

今年5月2日には第2回目の交流会を開催予定です。支店の閉鎖といった地域住民にとって望ましくない始まりでしたが、年々広がって盛り上がっていく地域活動の今後の展開が楽しみです。

協同組合は開かれた組織です。農業者の団体と思われがちですが、貯金や融資、共済、農作物等の販売、農業や生活に関する相談業務、農協法で認められた総合事業を行っており、どなたでもご利用いただけます。協同組合は、地域の困りごとを地域で解決することから始まっています。相互扶助、

「一人は万人のために万人は一人のために」が活動の根本、今後も益々グレードアップする協同組合の活動にご期待ください！ 次回は株式会社叶匠寿庵さんをお願いします。



交流会の様子



特産品の日野菜加工品

グリーン近江農業協同組合

滋賀県東近江市八日市町1-17
TEL: 0748-25-5100
URL: <https://www.jagreenohmi.jas.or.jp/>

今さら聞けない用語集

【GX(Green Transformation)】

イノベーションによる再生可能なクリーンエネルギーへの転換や情報技術の導入などを通じて、脱炭素化していく取り組みのこと。

【SX(Sustainability Transformation)】

企業のサステナビリティを重視した経営を行う考え方のこと。

【DX(Digital Transformation)】

デジタル技術を活用してビジネスや企業の変化を通じて、社会全体を変革すること。

【アニマルウェルフェア】

世界動物保健機関(WOAH)により「動物が生きて死ぬ状態に関連した、動物の身体的及び心的状態をいう」と定義されている。ペットや動物園の展示動物だけでなく、実験動物や家畜なども含まれる。

潮流

衣 国内ファッションリユース市場規模は前年比113.9%

2023年のアパレル総小売市場規模は8兆3,564億円、前年比103.7%ですが、リユース市場規模は前年比113.9%の1兆1,500億円と非常に伸びています。皆さんは服を一着作るのにどのくらいの水やCO₂が排出されるか知っていますか？環境省の調査によると、服一着製造する時の原材料の栽培や染色等で必要と言われる水の量は約2,300リットルで、浴槽約11杯分、500mlのペットボトル換算で約255本製造するのに匹敵しているとのこと。また排出されるCO₂は約25.5kgで、大きな環境負荷がかかっていることが分かります。今着ている服一着がどれだけ環境負荷をかけているか、よく考えて大事に着ましょう。



食 「食品ロス」削減へ食べ残し持ち帰り促進ガイドライン公表

SDGsにおいて食品ロス削減に関する国際目標が設定され、日本は2030年度までに2000年度比で食品ロス量を半減させるという政府目標となっています。2024年12月に、厚生労働省は「食品ロス」削減のために、「食べ残し持ち帰り促進ガイドライン～SDGs 目標達成に向けて～」を公表しました。

- 消費者**
 - 使い捨て手袋を使ったり、手指を消毒したりして衛生的に詰め替えを行うこと
 - 水分はできるだけ切り、温度管理がしやすい容器に小分けすること
 - 箸をつけた料理は、原則、持ち帰った後に本人が食べることを求めています。
- 飲食店**
 - 手指の消毒液や使い捨て手袋を必要に応じて消費者に提供すること
 - 詰め替え容器を衛生的に保管すること
 - 十分に加熱したものなど、持ち帰りに適した料理をあらかじめ検討しておくこと



まずは食べきれぬ量を注文して食べきる、これが大前提です。グリーン購入基本原則でも一番初めは「購入する前に必要性を十分に考える」です。また宴会や会食をされる方も多いかもしれませんが、その時は30・10（最初の30分と最後の10分は自分の席に座って料理を楽しむ）を心掛けましょう！

住・他 次世代太陽電池～ペロブスカイトって何？

最近「次世代太陽電池」という言葉をよく耳にしませんか。2024年11月経済産業省はペロブスカイト太陽電池の普及に関して「次世代太陽電池戦略」を公表しました。2040年までに、国内約20GW、海外500GW以上の導入を見込んでおり、2040年時点での価格は、10円/kWh～14円/kWhを目指しているとのこと。現在、主流のシリコン太陽電池が市場の95%を占めていますが、それ以外の様々なタイプのもも開発されていて、中でもペロブスカイト太陽電池の進化が著しいと言われています。

ペロブスカイト(Perovskite)とは灰チタン石(かいチタンせき)を意味しており、その結晶構造を持つものを総称して「ペロブスカイト」と呼びます。ペロブスカイト太陽電池は、その「ペロブスカイトの結晶構造」を持つ化合物を用いられて作られる「日本発」の技術であり、「曲げられる(さまざまな形状で使用できる)」「軽い/薄い」「低コスト」という特徴があるため、今まで設置困難であった場所にも取り付け可能で、私たちの生活を大きく変える可能性があります。主原料の「ヨウ素」も日本国内で調達可能であるため、今後が楽しみです。

太陽光パネルの廃棄・リサイクルについても色々指摘されていますが、2025年度からペロブスカイト太陽電池についても廃棄・リサイクル技術の研究開発の検討を進めていくとのこと、今後この日本発の技術の実装が待たれます。

一般社団法人滋賀グリーン活動ネットワーク(SGN)に入会すると様々な事業への参加や、サービスをご利用いただけます！ SGNに参加して一緒に「グリーン経済」を目指しましょう！



<p>GPプラン滋賀 グリーン購入に取り組む中小企業の登録制度「グリーン購入実践プラン滋賀登録制度」の略称です。登録者は滋賀県グリーン入札に参加できます。(登録料:無料)</p>	<p>啓発資材貸出 各種啓発パネルや学習教材等を学習会や展示イベント等に利用できます。(無料)</p>	<p>会員講師派遣事業 地域事業や大学の講義等に会員講師を派遣する制度です。講師として自分の知識や経験を活かすこともできます。</p>	<p>いちおしグリーン商品リスト SGNより会員に発行するエコ商品・サービスのリストに自社製品・サービスの情報を掲載できます。(無料)</p>
<p>会員交流 会員総会やセミナー終了後に開催する会員交流会では、他の会員とのつながりを得ることでビジネスチャンスも生まれます。</p>	<p>各種セミナーへの優先的参加 SGNが主催する各種セミナー等に無料もしくは割引価格で参加ができます。</p>	<p>ニュースレター・メルマガ・FAXリリース・ホームページ 環境関連のトピック満載。会員からの情報も掲載できます。(一部有料)</p>	<p>チラシ同封サービス SGNから会員宛ての郵送物に、低コストでチラシを同封できる正会員限定のサービスです。(有料)</p>
<p>会員商品・活動展示 総会やイベント等で商品・活動を展示し広く紹介することができます。(無料)</p>	<p>グリーン購入キャンペーン 自らのグリーン購入の取組や、地球温暖化防止に関わる取組を見直し、さらに地域に広げるために、毎年、会員連携で実施しています。今はエシカル消費も呼びかけています。</p>	<p>各種イベント等への出展・参加 環境学習の場を提供するイベントへの出展を通して、エコ商品や地場産品の販売や情報提供をしていただけます。</p>	<p>企画・運営サイドへの参加 部会や研究会等に参加することで「活動をつくる側」に参画できます。新たな発見や仲間づくりにつながります。</p>



会員発工コ商品情報

次号掲載
「エコ商品情報」
募集中!

～木でつくる福祉施設の職場環境づくり～ 「IZANAI CUBE Relax ～リラック～」

株式会社コスト

「リラック」とは、びわ湖材を100%使用した施設職員の方がほっとできる時間を提供する移動式のリラックス空間です。利用者さんの近くで集中できる執務空間・職員が一息つける休憩スペース等、木のぬくもりのある空間で快適に過ごせます。一般企業でもWEB会議や個室の執務空間としてご利用いただけます。

木材が人にもたらす効果として、脳波が落ち着く・集中力が増す、血圧が安定するといった効果が実証されています。森林を再生し未来につなぐ循環づくりのため、「木」をつかった空間のご提案をしておりますので



お気軽にお問い合わせください。



〈お問合せ〉株式会社コスト



〒604-8481 京都市中京区西ノ京冷泉町98-5
ダイコウビル3階 TEL: 075-366-8308
E-mail: info@costtrad.com
URL: https://costtrad.com

環境にやさしい

「ガムテープ」



株式会社コンセ

ガムテープというと、一般的には粘着テープを思い浮かべるかもしれませんが。しかし物流業界で使われるガムテープとは本来、粘着テープではなく水テープ(WAT=Water-Activated Tape)のことを指します。

水糊が段ボールに浸透して固着しますので、一度貼り付けば剥がれません。粘着テープと違って、低温や高温の梱包にも対応できます(※対応温度-40℃～100℃)。

専用の繰出し機(ディスプレインサー)を使って、目的に応じた定量の水テープをワンタッチで繰り出すガムテープのシステムは、明らかな資材費の削減、作業時間の短縮、そして美しい封かんを実現します。



BP755



BP555



〈お問合せ〉株式会社コンセ



〒520-2141 滋賀県大津市大江8丁目110-1
TEL: 077-545-3435 FAX: 077-543-2465
URL: https://www.konse.co.jp/

編集後記

1月28日、埼玉県八潮市で県道が陥没し、トラックが転落する事故が発生しました。道路の陥没の原因は下水道管の破損とみられています。普段利用する道路が一瞬にして消えてしまうことに恐怖を感じるとともに、周辺住民にも下水道の使用制限など大きな影響を与えました。現在では日常生活で汚水や雑排水が目に見えにくくなり、下水道の役割は事故や災害時に再認識されます。下水道には衛生的で快適な暮らしの実現、河川等の水質の保全、浸水被害を防ぐ役割があり、住民の生活や社会経済活動を支える重要な社会インフラです。これを機に下水道の点検や老朽化対策を急がなければならないのはもちろんのこと、その他の社会インフラの老朽化、人口減少、気候変動、生物多様性の損失など目に見えにくい社会問題を見える化」する取組を一層進めていかなければならないと思っています。

(副会長/公財) 淡海環境保全財団 高木 浩文

2025年は、4月に大阪・関西万博が、9月末には我が滋賀県において「国スポ・障スポ2025」が開催されます。大阪・関西万博においては2820万人が来場され、その内滋賀県にも300万人が来県されるよう関西パビリオン「滋賀ブース」で滋賀の魅力を発信されます。コンセプトにある【資源を循環させて環境や社会にもやさしい取組を進めることで、近江商人に根付く「三方よし」の理念を体現しながら、未来に向けて持続可能な「いとなみ」をさらに発展させていきたい】という滋賀県の発信に世界の人々はどう興味を抱いてくれるのか楽しみです。「国スポ・障スポ2025」では各選手や観衆向け「おもてなしコーナー」で滋賀県をアピールされるそうです。滋賀グリーン活動ネットワークで培ってきた滋賀から「グリーン経済」をつくる ～産・官・民・学と協働してMLG5の達成を目指し、子や孫の世代まで幸せや豊かさを実感できる持続可能で「未来よし」な社会をつくる～をPRする絶好のチャンス到来ではないでしょうか?

皆さんの会社やお店に多くの観光客が来県されますので、是非自社の「未来よし」をおもてなしとして出来たらいいですね。

(幹事/アインズ(株) 谷 康夫)



編集・発行/一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク

〒520-0807 滋賀県大津市松本1-2-1 大津合同庁舎6階

TEL: 077-510-3585 FAX: 077-510-3586

Eメール: sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL: https://www.shigagpn.gr.jp/

